

れいはいはさいこうのしゅくふ



わたしを あいしてくださる かみさまに
さいこうの えいこうを ささげましょう



モーセの しゅつエジプト

- いのり _____ しかいしゃ
しとしんじょう _____ みんなで
さんび _____ さんびか 93 ばん（イエスはわがいのち）しゅのなかにいるわたし（2019 ねんこどもさんび）
- せいしよ _____ しゅつエジプト 4:24

しゅつエジプト 4:24 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主はモーセに会われ、彼を殺そうとされた。

- みことば _____ モーセの しゅつエジプト _____ しかいしゃ

モーセは、しゅうとのイテロの許可をもらって、エジプトに向かって出発しました。神様の奇跡をおこなう杖を握っていきました。神様は行く途中の割礼を通して、モーセに契約を握らせました（出 4:24）。

モーセと兄のアロンがエジプトの王の前で神様のみことばを伝えたのですが、エジプトの王は、聞きませんでした。神様がエジプトの王の心をかたくなにされたからです。

神様はエジプトの地に血のわざわい、かえるのわざわい、ぶよのわざわい、あぶのわざわい、家畜の病気のわざわい、腫物（皮膚病）のわざわい、雹のわざわい、いなごのわざわい、暗やみのわざわい、そして、長子を打つわざわいという 10 の恐ろしいわざわいを下されました。

しかし、ゴシェンの地に集まっていたイスラエルの民には、なんのわざわいも下されませんでした。最後の長子を打つわざわいのときは、イスラエルの民の家のかもいと門柱に、羊の血をぬるようになわれ、それによってわざわいはイスラエルの民を過ぎ越しました。この羊の血はイエス・キリストの十字架の血を意味します。

- いのり _____ いっしょに おおきなこえで
いのりましょう

ちちなる かみさま、ありがとうございます！ イエス・キリストの じゅうじかの ちによってわたしをつみからすくってください かみのこどもに してくださったことを かんしゃします。いきておられる イエス・キリストの おなまえによって おいのりします。アーメン

しゅのいのり _____ いっしょに しゅのいのりを いのって れいはいを おえましょう

- フォーラム _____ きょうの みことばを きいて パパとママと はなしを しましょう



まいにち
✓チェックしよう



133とは、みことばを 1にち 3かい 3かいずつ よめば
いっしゅうかんに おぼえることが できるという いみです。



あまくて ふしぎな かみさまの みことばを まいにち よみましょう。
よく みえる ところに はっておいて いっしゅうかん
くりかえし よんで みことばを おぼえましょう

さて、とちゅう、

いちやを あかす

ばしょでの ことだった。

しゅは モーセに あわれ、

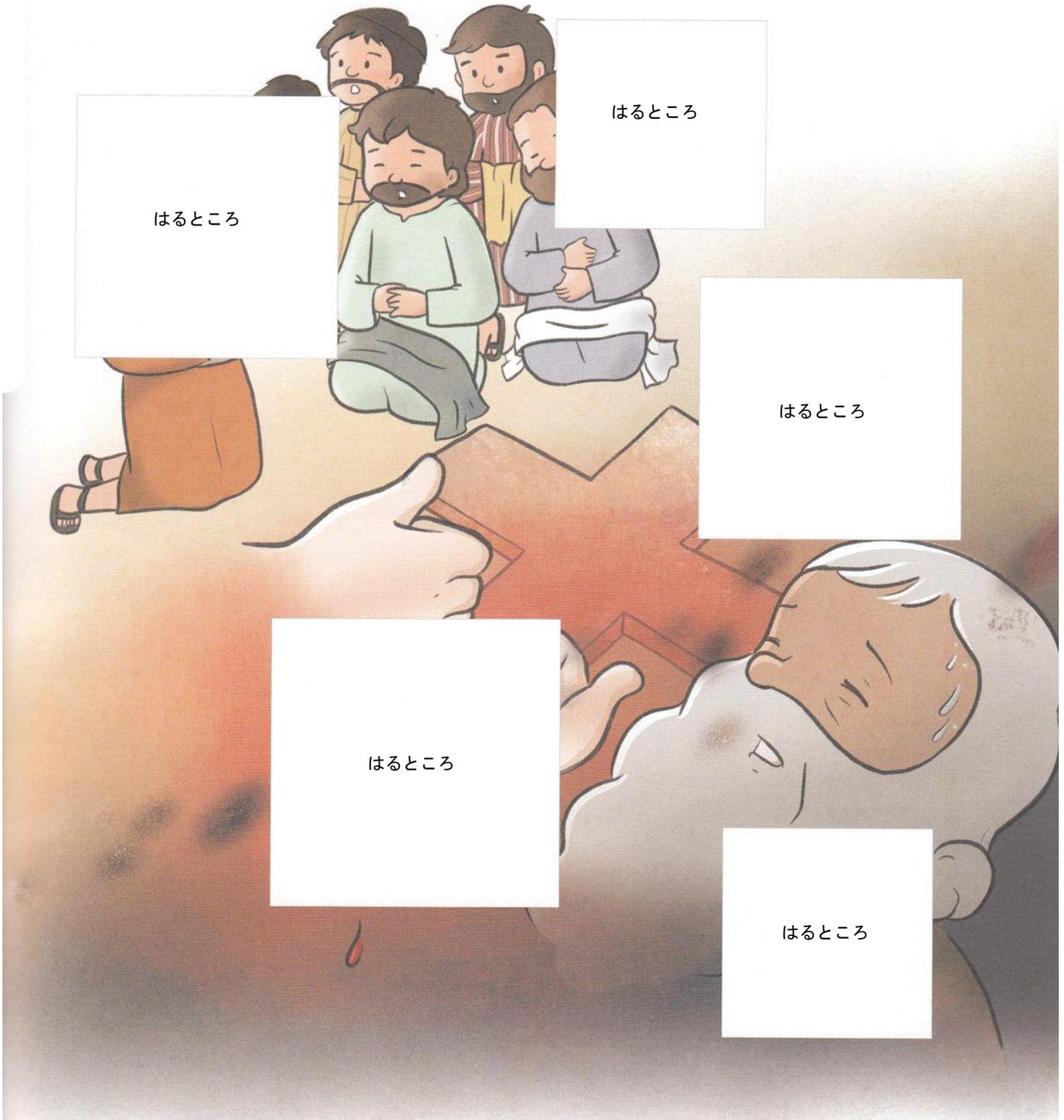
かれを ころそうと された。

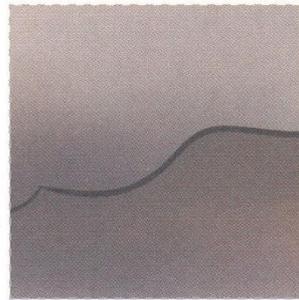
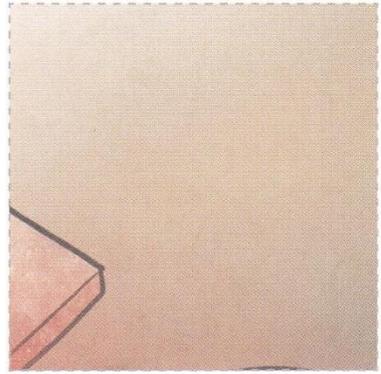
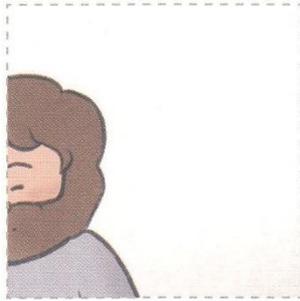
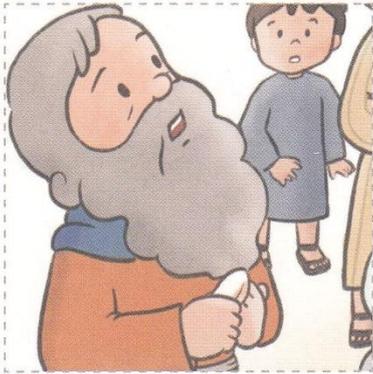
しゅつエジプトき4しょう24せつの みことば



モーセは かみさまの きせきを おこなう つえを にぎって エジプトに しゅっぱつ しました。 かみさまは いく とちゅうで かつれいを するように されて、 けいやくを にぎらせて ください ました。 したの えを みて あいている ところに あう えを つぎの ページから きって はりましょう。

じゅんびする もの： はさみ のり つぎのページ





きょうも パパとママと いっしょに れいはいしましょう。
きょうの みことばで じゅうような たんごを もういちど
かんがえてみましょう。
したの あいている ところに あう ことばを いれましょう

モーセは かみさまの きせきを おこなう
つえを にぎって エジプトに いきました。
かみさまは いく とちゅうの () を
とおして、モーセに () を
にぎらせました。

エジプトの おうは かみさまの みことばを
きかなかったので 10の わざわいが
エジプトに のぞみました。

しかし、() に
あつまっていた イスラエルの たみには、
なんのわざわいも くだされませんでした。

かつれい けいやく ゴシエンのち

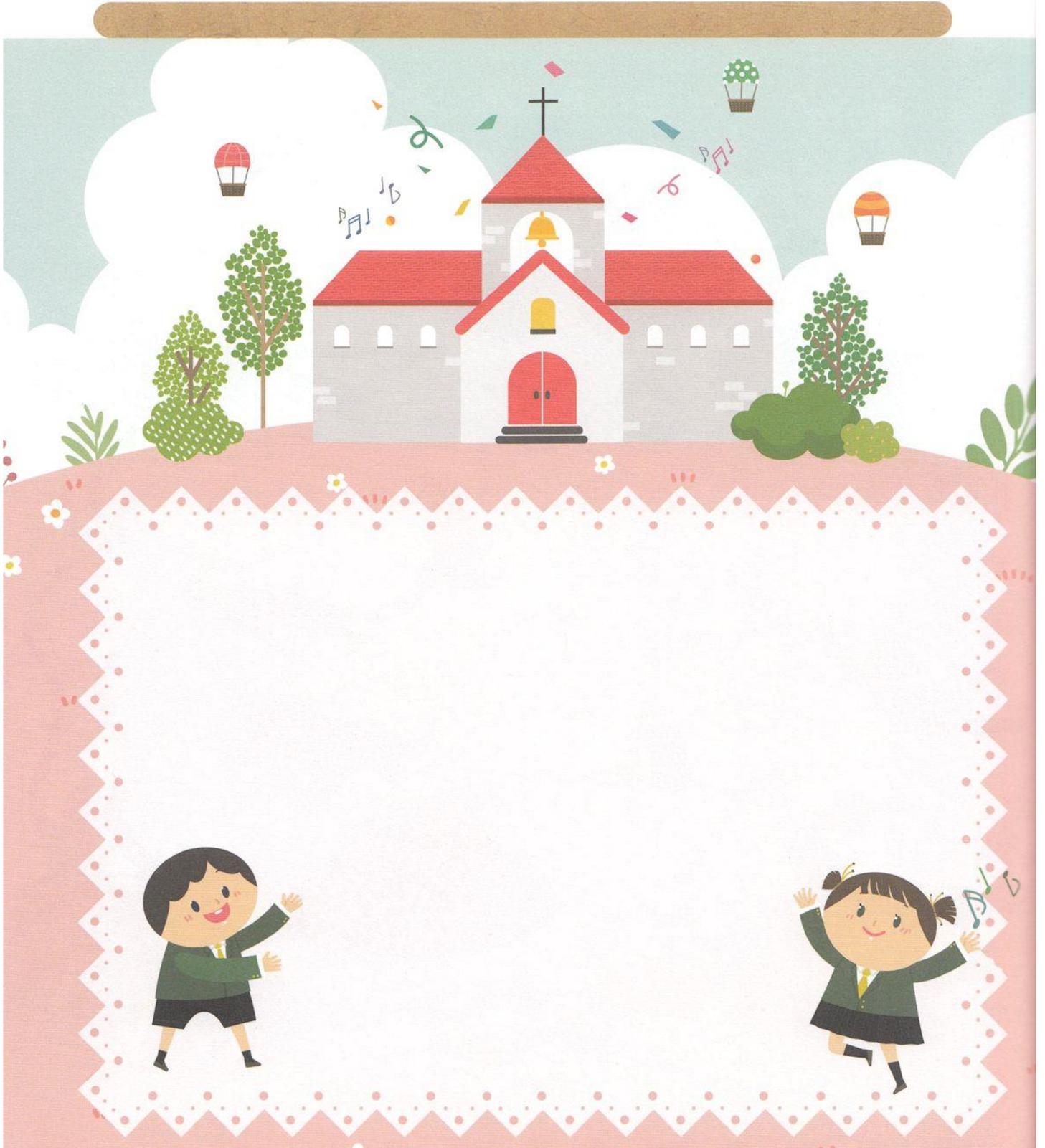




パパとママと いっしょに おはなしして
かみさまが よろこばれる かんがえ ことば こうどうを
えで ひょうげんしましょう。



エジプトの すべての ぐらぞうが くずれて ひつじ (イエス・キリスト) の
ちを めった ひに どれいから かいほうされて しゅつエジプト しました。
わたしと かぞくが している または しらないでいる ぐらぞうは
なにか あるでしょうか。 かぞくと いっしょに はなしを して
えか じで ひょうげんしましょう。



たのしい ワークをして いっしゅうかんの みことばを
こころに きざみましょう

23

どうぶ

わたしは かみさまと ともに けいやくの りよていを あゆむ
しあわせな レムナントです。 ゆっくり できる ばしょに すわって
つぎの ページからの 「かみさまと ともに いた せいしょの じんぶつ」を
よんで しゅじんこうと たいわを しましょう。 しゅじんこうが
わたしに はなしてくれる ことは なにか かんがえましょう。

じゅんぴするもの | つぎのページからの ダビデのはなし

せいしょ どうわを よんで ダビデと たいわを してみよう



しゅじんこうの ダビデに なにを いたいたいですか。
せいしょ どうわを よみながら いたいたいことを しゅじんこうに
はなしかけて みましょう。

しゅじんこうが わたしや いっしょに よんでいる ひとに
いたいたい ことは なんでしょうか。 どんな ことを こたえて
くれるでしょうか。

おわったら かみさまに かんしゃの おいのりを しましょう。

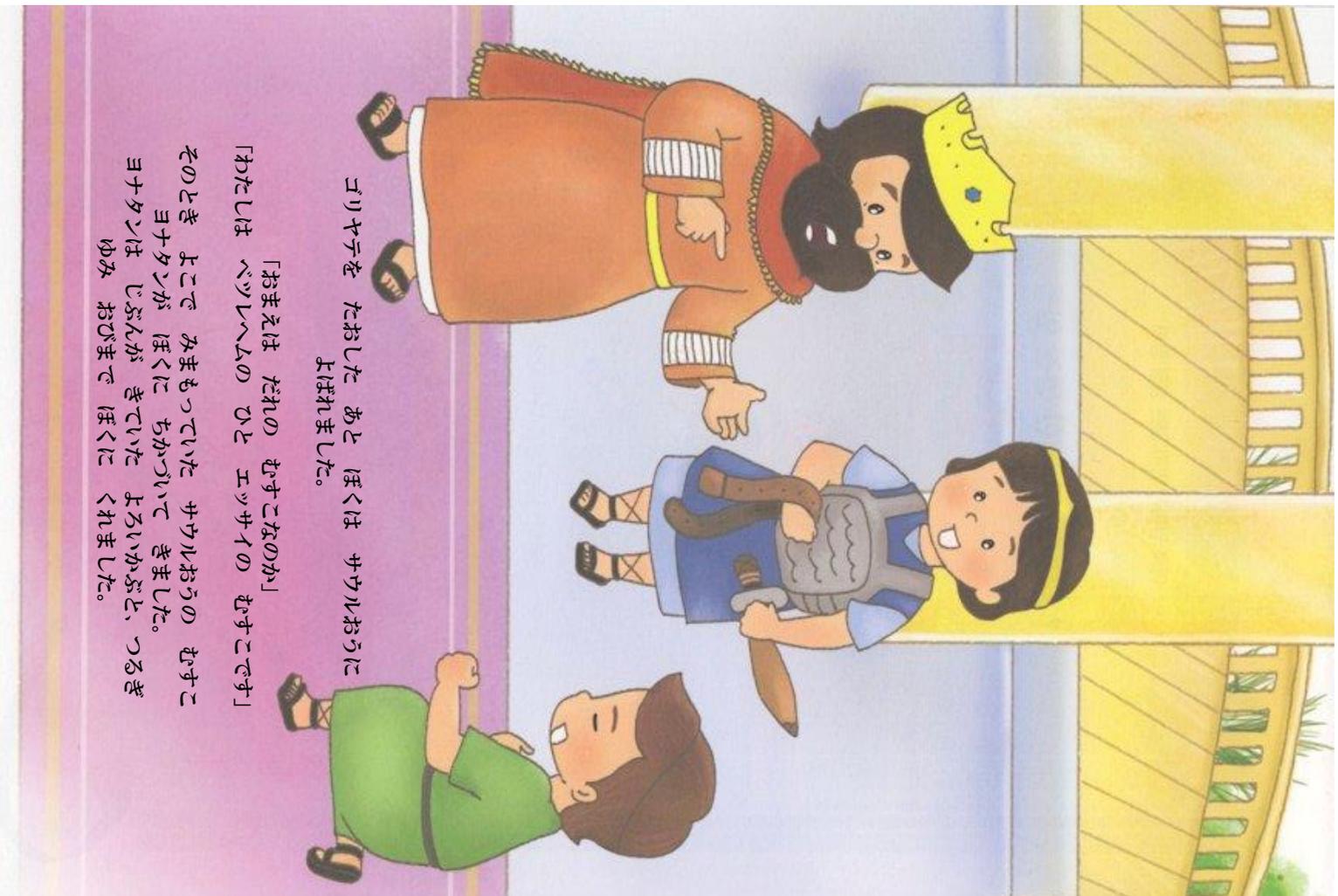
パパとママと よむ せいしょどうわ

かみさまと ともに いた せいしょの じんぶつ

ダビデ



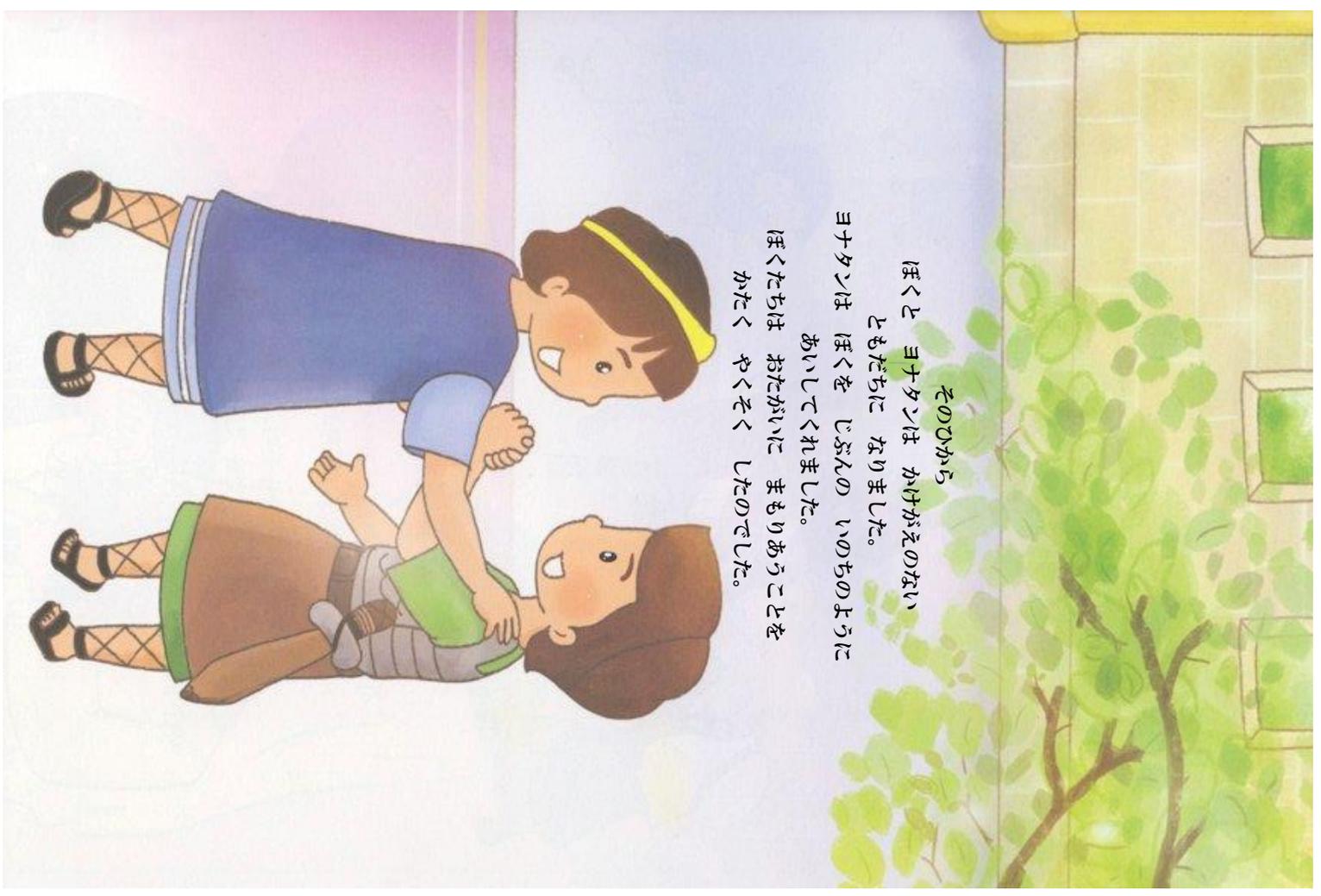
こんにちは ぼくは ダビデ！
ぼくは のはらで ひつじを かう しごとを していたんだ。
あるひ サムエルさいしちょうが ぼくに あぶらを そそいで
けいやくを つたえて くれたんだ。 そのあと どんな ことが
おきたのか しりたいでしょう。
これから ぼくの はなしを きいてね！



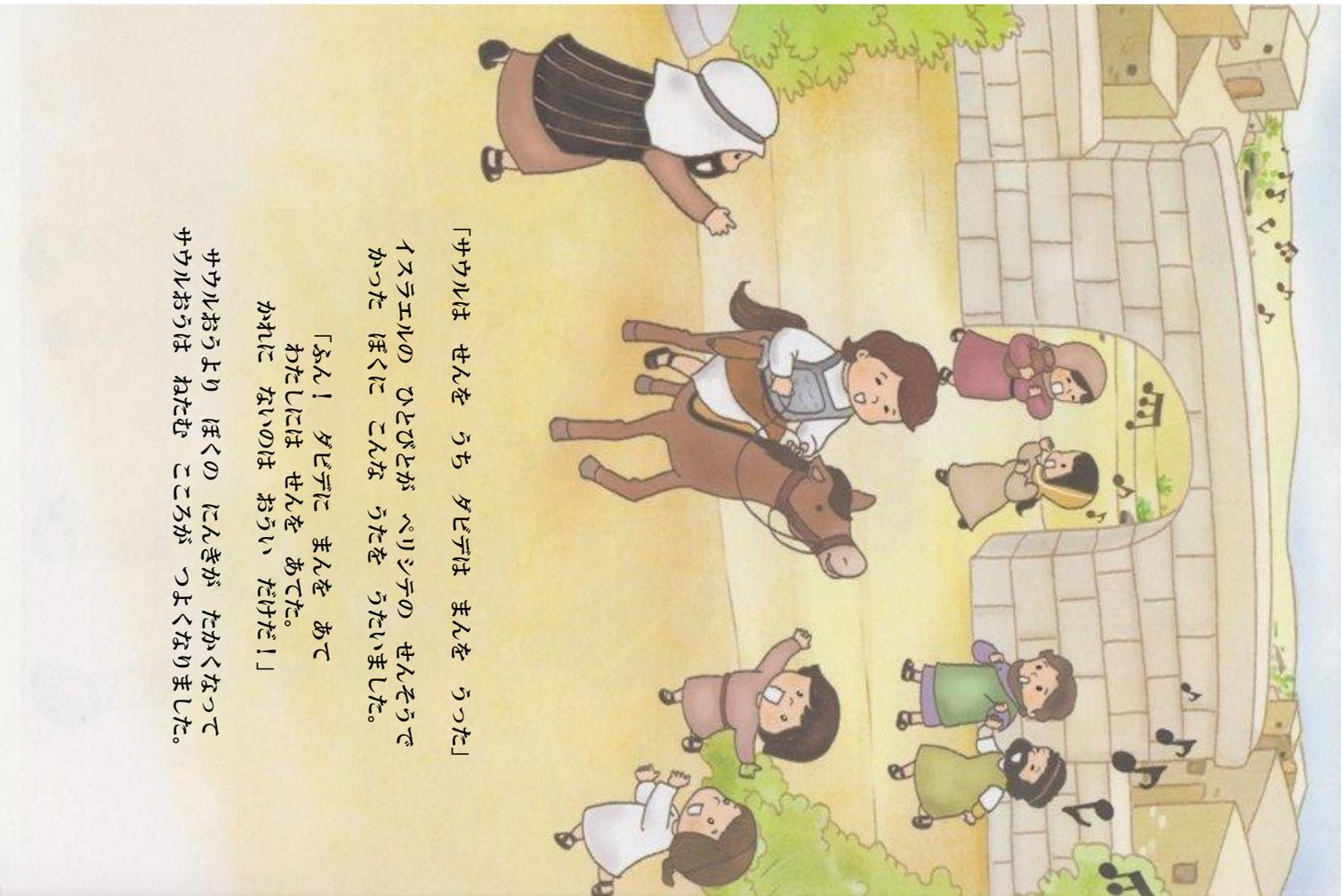
エリヤテを たおした あと ほくは サウルおうに
よばれました。

「おまえは だれの むすこなのか」
「わたしは ベツレヘムの ひと エツサイの むすこです」

そのとき よこで みまもっていた サウルおうの むすこ
ヨナタンが ほくに ちかづいて ききました。
ヨナタンは じぶんが きいていた よろいかぶと、 つるぎ
ゆみ おびまで ほくに くれました。



そのひから
ほくと ヨナタンは かけがえのない
ともだちに なりました。
ヨナタンは ほくを じぶんの いのちのように
あいしてくれました。
ほくたちは おたがいに まもりあうことを
かたく やくそく したのでした。



「サウルは せんを うち ダビデは まんを うった」

イスラエルの ひどびどが ペリシテの せんそうで
 かった ほくに こんな うたを うたいました。

「ふん！ ダビデに まんを あて
 わたしには せんを あてた。
 かれに ないのは おうい だけだ！」

サウルおうより ほくの にんきが たかくなつて
 サウルおうは ねたむ ころが つよくなりました。



「このまま おいておいたら だめだ…
 ダビデを わたしの むこに すると いって
 ペリシテとの せんそうに おくって
 せんそうで ころされるように してやろう！」

ほくは サウルおうが ほくを ころそうと
 おもっているとは まったく しらす
 おうの むすめ ミカルと
 けっこんしました。

あるひ サウルおうは むすこの ヨナタンと けらいに
ぼくを ごろせと めいれいしました。
ぼくの ともだちの ヨナタンは ちちおやの サウルおうに
おねがいをしました。

「おとうさん！ タビデに なんの つかがあるから
ころすのですか。」

かれは いのちを かけて ペリシテの ぐんたいと
だたかって おとうさんも よろこんでいたでしょう。

どうか やめて ください！」

「わかった！ しめは いきておられる。
タビデは ころされることは ない！」

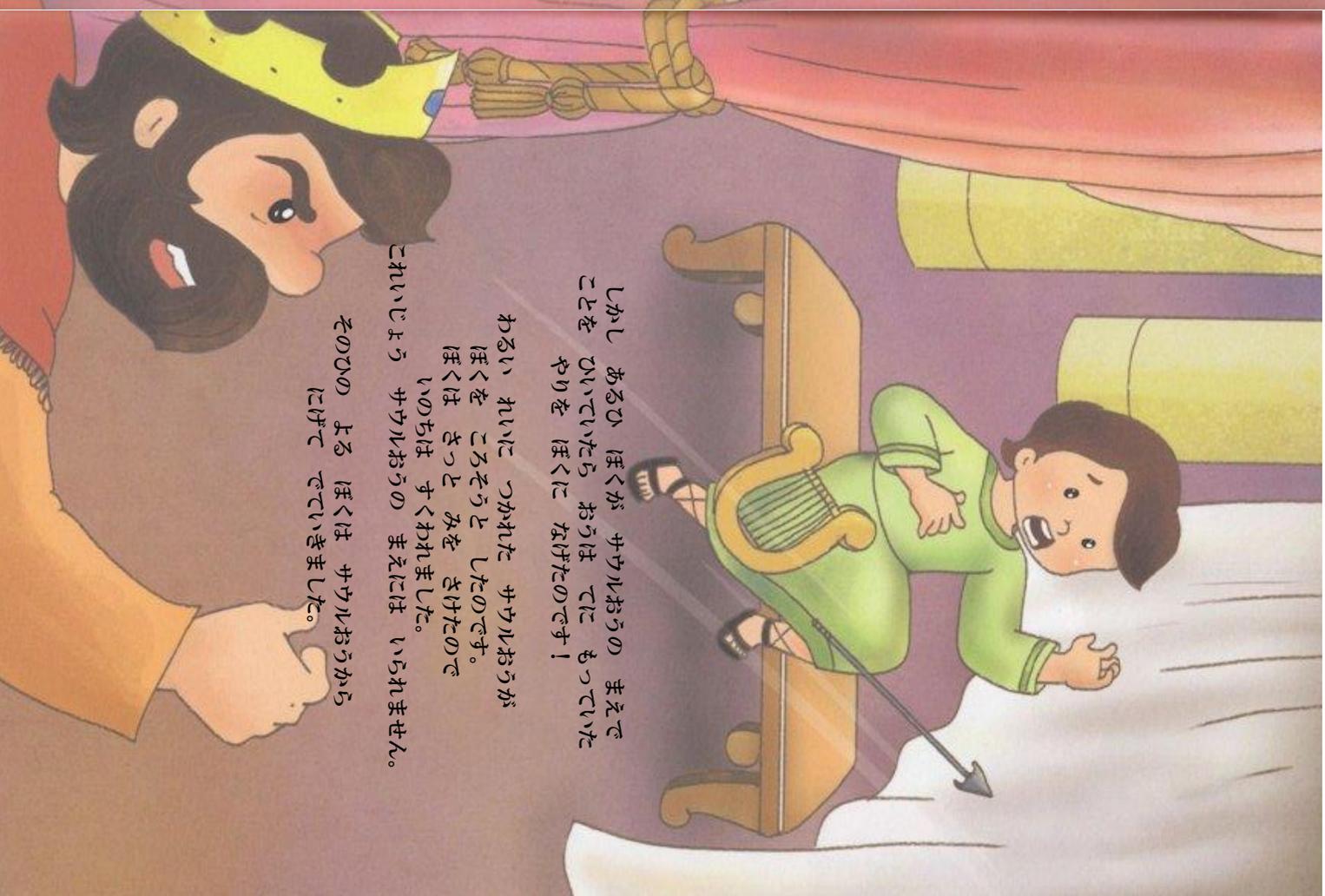


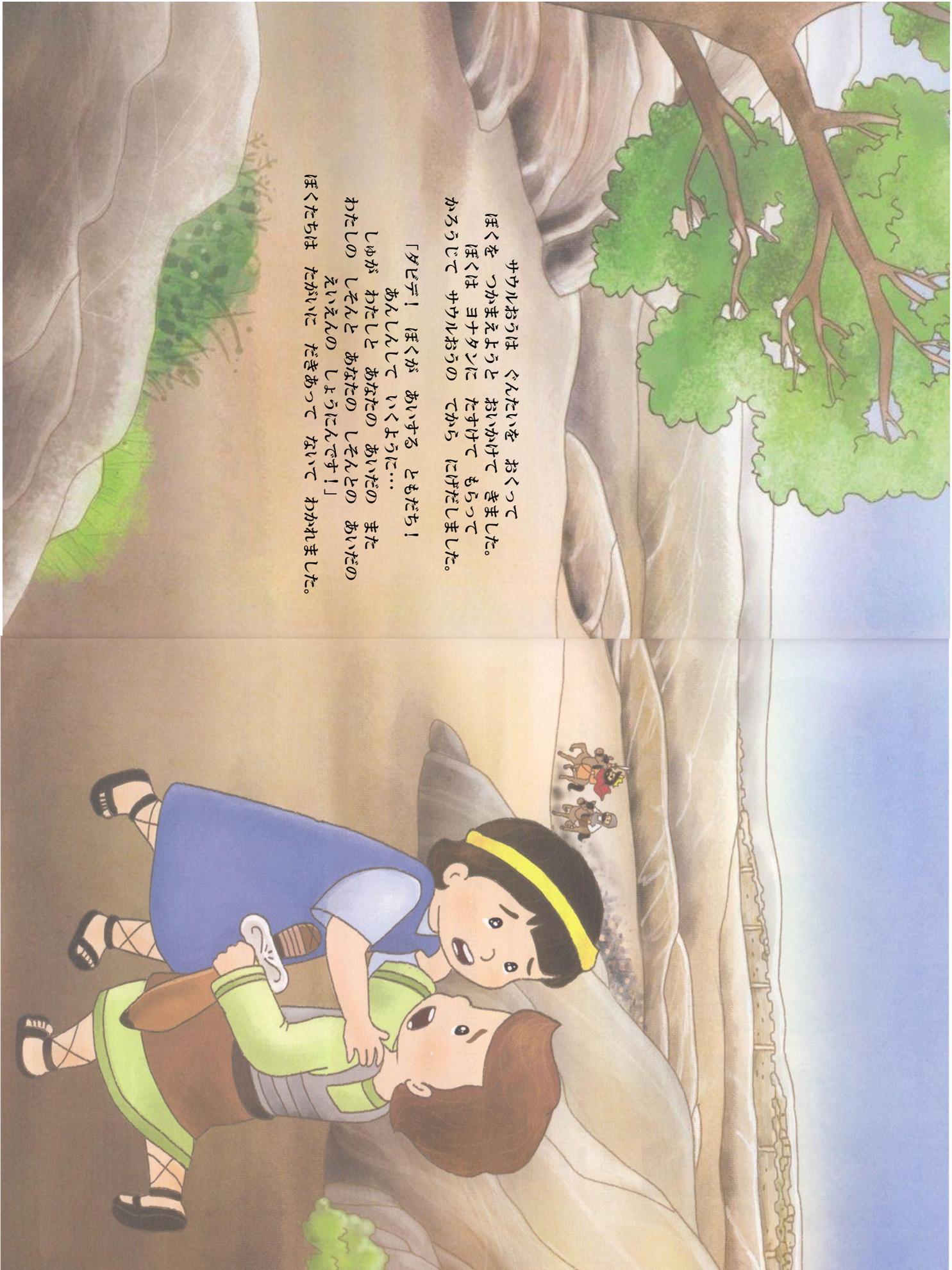
しかし あるひ ぼくが サウルおうの まえで
ことを ひいていたら おうは てに もっていた
やりを ぼくに なげたのです！

わるい れいに つかれた サウルおうが
ぼくを ごろそうと したのです。
ぼくは さつと みを さけたので

いのちは すくわれました。
これいじょう サウルおうの まえには いられません。

そのひの よる ぼくは サウルおうから
にげて でていきました。





サウルおうは ぐんたいを おくって
ほくをつかまえようと おいかけて きました。
ほくは ヨナタンに たすけて もらって
かるうじて サウルおうの てから にげしました。

「ダビデ！ ほくが あいする ともだち！
あんしんして いくように…
しゅが わたしと あなたの あいだの また
わたしの しそんと あなたの しそんどの あいだの
えいえんの しょうにんです！」
ほくたちは たがいに だきあって ないて わかれました。

